



第31回社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」
in 島根県益田市

Agenda

#1

クラダシチャレンジとは

#2

7日間のスケジュール

#3

活動報告

#4

参加者の声

#5

事後報告会

#1. クラダシチャレンジとは

#1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

フードロス問題や地方創生に興味関心のある学生が日本全国の地域・農家へインターンとして訪れ、作物の収穫支援や現地での交流を通して一次産業や地域経済の活性化について考える取り組みです。参加学生の旅費・交通費や現地での滞在費、食費等は、地域経済の活性化と社会発展に寄与するために設立した「**クラダシ基金**」から支援しています。

クラダシチャレンジ実施の目的

活動中: 収穫したものをKuradashiのサイト上で販売することで、新たな収益を生み出し、経済面で地方・農家を支えます。さらに、学生が現地を訪れることで町に活気をもたらし、地域の魅力をSNS等で発信することでさらなる発展のパワーに繋がります。

活動後: 学生が自治体や農家の方1人1人の温かみに触れ、地方・農業の魅力を体感することで、将来のキャリア選択を通して地域に貢献しようという意識が芽生えます。

#1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは クラダシ基金の概要

地域経済の活性化と社会発展に寄与するために
設立された支援金制度「クラダシ基金」



地方創生事業・フードバンク支援事業・教育事業・
食のサステナビリティ研究会の社会貢献活動に充てられます。

クラダシ基金とは

クラダシ自らが社会貢献活動を行うために
創設した基金で、ソーシャルグッドマーケット
「Kuradashi」上における支援先の1つです。

地域創生事業やフードバンク支援事業、教
育事業、食のサステナビリティ研究会の社会
貢献活動に活用しています。

▼参考URL

クラダシ基金について

: <https://www.kuradashi.jp/fund>

「クラダシチャレンジ」の目的：地域経済の活性化

① 益田市の活性化

島根県益田市は、「過疎」という言葉発祥の地と呼ばれており、日本でも先駆けて高齢化社会に突入。9割近くの若者が高校卒業時に益田市外に転出しており、その後の Uターンも3割りととどまっています。クラダシチャレンジを通して学生が作業を手伝い、収穫したものを Kuradashiで販売することで農家さんの新たな収入を生み出すほか、益田市 / 益田市の特産物の PR方法を考案し、魅力を広めたりすることで、益田市の関係人口増加に貢献します。

② 益田市の関係人口増加に貢献、若者を呼び地域振興に

このクラチャレでは、現地の方々を収穫作業を通じた交流、また益田市の地域の方と意見交換できるのも魅力のひとつ。活動を通して、収穫作業そのものや、その地域に価値を見出す学生がたくさんいます。そうした体験や交流を通してすさみ町の魅力を学生がを見つけ、SNSを通じてその魅力を発信することで、認知拡大や地域の関係人口の増加を図ります。

③ 地域の特産品の購買促進に

益田市には、魅力的な特産品がたくさんあります。中には、とっても美味しいのに、市場での知名度があまり高くないものも存在します。そこで、クラチャレの活動や特産品を SNSなどでPRすることで、購買促進を図ります。

第31回 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」 in 島根県益田市

- 活動内容: ①梨の収穫・選果・箱詰め作業
 - ②観光農園のお手伝い
 - ③益田市役場の職員の方々と意見交換
 - ④現地観光
 - ⑤SNS等を利用した地方の魅力発信
- 開催期間: 2023年9月14日～9月20日
- 参加人数: 6人
- 実施企業: 株式会社クラダシ (クラダシ基金にて運営)

#1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは 島根県益田市クラダシチャレンジの概要

【益田市 は】



益田市は島根県の一番西側にあり、海・山・川の揃った自然豊かなまちで、人口は 43,864人（令和5年8月末）。

これまでに何度も水質日本一に輝いている「清流高津川」の綺麗な水が育む、鮎やハマグリをはじめ、様々な特産品があります。

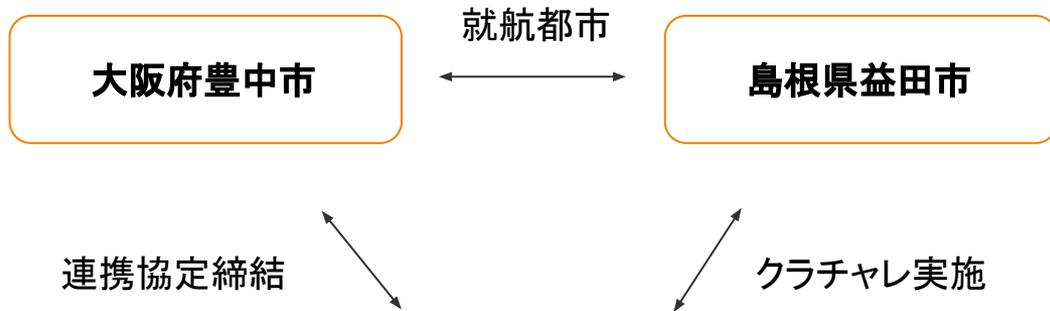
また、歴史文化も豊富で、歌聖「柿本人麻呂」、画聖「雪舟」のゆかりの地で、関連する寺院や神社など文化財が多く残っています。中世日本を味わえるまちとして、2020年に日本遺産に認定されました。

#1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは 「クラダシチャレンジ」in 島根県益田市の概要

【開催の背景】

クラダシは2022年12月に益田市の就航都市である、大阪府豊中市と「[豊中市と株式会社クラダシとのSDGs推進に関する協定](#)」を締結。

その縁で今回クラチャレを実施する運びとなりました。



Kuradashi

#2. 7日間のスケジュール

#2. 7日間のスケジュール

	9/14(木)	9/15(金)	9/16(土)	9/17(日)	9/18(月)	9/19(火)	9/20(水)	
7:00		朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	
8:00								
9:00		作業	収穫	収穫	収穫	収穫		
10:00	移動						移動	
11:00								
12:00		昼食	昼食	昼食	昼食	昼食		
13:00								
14:00		移動	作業	収穫	収穫	加工		観光
15:00						意見交換会		
16:00								
17:00								
18:00								
19:00		夕食	夕食	夕食	夕食	夕食		

#3. 活動報告

【観光農園スカイファームでの農作業体験】

5日間、スカイファームさんのもとで働かせていただき、梨の収穫や選別、発送のための梱包作業、直売所での接客などを行いました！作業を行うなかで、少しの傷や軽く落とした程度の衝撃で傷んでしまい廃棄されてしまう果樹栽培の現状を知り、ジャムなどへの加工やクラダシのようなECでのマーケティングを用いて、それらをいかに減らすことができるかについて真剣に考えるよい契機になったと思います。

また、出荷される梨の多くを市内で消費していることや、直売や梨狩りを目的に市内外から訪れる方々との交流を通して、スカイファームと地域との情動的な相互関係を感じ取ることができました。これは、障害者や定年退職後であっても働きやすい職場づくり、従業員の方や市民がもつ益田の自然・伝統文化への愛着といったものからきているのではないかと考えます。



#3.活動報告:意見交換会

【意見交換会】

益田市職員の方々から事前に作った質問を元に市の現状や課題を説明していただき、地方での人口流出対策がどれほど難しいことかを実感しました。萩石見空港では一部期間を除きANAの東京便しか飛んでいないので、それ以外の路線を拡充しないのかという疑問については、採算性の低い地方ではまず飛行機を飛ばすことが難しく、今は国と毎日往来する契約で精いっぱいとのことでした。

空港があることは大きな強みだと考えていましたが、それだけでは足りないとわかり知名度の向上や観光客の呼び込み、空港利用への転入などの政策がマストであることも理解できました。



【石見神楽】

益田市をはじめとし、石見地域一体で親しまれる石見神楽を鑑賞しました。伝統芸能でありながら、その演目はどれも大きな動きや台詞、観客を巻き込む演出によって表現が豊かで、小さな子供も釘付けとなっている様子が印象的でした。世代を超えて親しまれ、地域の人々の拠り所であると肌で感じました。

【中世の街巡り】

益田には、中世に益田氏が築いた街の形相と文化が息づいています。雪舟が深く関わる医光寺や萬福寺に「点」として訪れるのではなく、実際に街を歩くことで、日本一の清流である高津川とその用水路がいかに歴史的に街の繁栄を支えたかを知ることができます。また、今にも残る寺院までの一本道を辿ることで、「面」としてこの街の生きた歴史を実感することができました。



#4. 参加者の声

島根県益田市スカイファームさんでの活動

益田市には、柿本人麿、雪舟等、日本では珍しい中世の歴史資源が豊富に残っていますが、益田市の職員さんが仰っていたようにそもそも中世と聞いてピンとくる人が少なく、歴史観光に来る観光客も萬福寺や医光寺を単体で訪れすぐ帰ってしまう人が多いです。職員さんのお話を実際に聞きながら観光してみて、それらの説明が無ければ気付けなかった庭園や彫刻の魅力があると深く感じました。

益田駅の観光協会に歴史ツアーの案内が目に入らなかったこと・益田市観光協会が作成している益田市観光ガイドにも、体験日前までの申し込みで七尾城を巡るツアーが一件だけしか紹介されていないことから、当日申込で気軽に参加できるツアーの展開が、益田市の歴史的魅力をより広く伝えることを可能にするのではないかと考えました。



【神戸大学2年 大西凜】

足を運んで、気づけたこと

「化成肥料の価格が高騰しているのよね..」

お世話になった観光農園スカイファームの渡辺さんから、ふとこぼれた言葉です。スカイファームさんでは、堆肥を多めに撒くことで化成肥料の使用量を削減されています。日本では化成肥料の原料の大部分を輸入に頼っているため、国際情勢の変化に伴って肥料コストが何倍にも跳ね上がり、多くの農家さんが苦悩しています。試行錯誤の結果、スカイファームさんでは地元の農場で比較的安価に入手できる牛糞堆肥を活用することに決めました。

このようにスーパーに並ぶ農産物の価格高騰の背景には、農家さんの苦悩や工夫があるということ、肥料散布や収穫作業を通じて学ぶことができました。今後は、肥料コストやロス商品の削減といった課題の解決に繋がるような新しいビジネスを作りたいと考えています。たくさんの学びと気づきを与えてくれたクラチャレに2回も参加することができ、感謝の気持ちでいっぱいです。



【上智大学4年 鈴木華】

梨と歴史と人々と

8/14～8/20の1週間、島根県益田市にて農業体験や歴史観光を行いました。スカイファームさんのもとで、梨の収穫や梱包などの作業を行い、一次産業の大変さや、傷や規格外を理由に廃棄されてしまう現状を肌で感じる事ができ貴重な体験となりました。

今回のクラチャレで最も印象的だったのは人の温かさです。農園や市役所の方々、街で出会う人々から、心から歓迎されていることが伝わってきましたし、地元への深い愛着を感じられました。ただ、この感覚は一度訪れてみないとわからないことであり、実際に経験することの大切さと、いかにしてこの体験を広められるかについて自らの頭で考えるきっかけとなりました。

1週間という短い期間ではあったものの、多くの新たな問題意識をもつことができました。そして、Mランドや空港マラソンを通して、これからも益田市に関わっていきたいと思います。



【筑波大学2年 山口翔悟】

都市と地方

クラダシチャレンジ in 益田市は、「地方」とも「農業」とも無縁であった私がそこに飛び込むことによって「生きること」の視点を広げる機会になりました。

クラチャレの中で「地方の人は都市を知っているけど、都市の人は地方を知らない」という従業員の方の言葉が印象に残っています。これはマイノリティとマジョリティの構造に似ていると思いました。都市に住む人の方が優位に立っている、そんな見方だと推測します。確かに、都市に全てが集中し、端的に言えば暮らしの水準が高く、だからこそ地方の人がそこに流入している事実があります。

しかし私が益田市で実際に肌で感じた自然、人の豊かさ、コミュニティの温もり。都市の「優位性」というものを都市の人も、もしかしたら地方の人も錯覚し、その是非を決めつけているかもしれません。

各所への交通網の発達や、テレワーク、テクノロジーの進歩によって地方と都市のつながりがより容易くなり、都市の人が地方を知り、選択肢として行き先や移住先に選ぶ機会も増える可能性が多いにあります。それをうまくシステム化し推進する政府や企業のカも必要であると感じました。



【早稲田大学3年 古川紗良】

内面的な変化

今回のクラチャレは自分や社会を顧みる時間となりました。何よりも自分にとっての変化は、人や地域に強い愛着を感じた事です。1週間ほとんどの時間を一緒に過ごしたクラダシチャレンジ参加者の仲間、お世話になった益田市の市役所の方々、スカイファームの皆さん、株式会社クラダシの方々、豊中市の市役所の方、関わった全ての方々が温かく優しくかったです。

交通アクセスや産業、人口量の面で、益田市が厳しい局面にいるとしても、そんな理屈を超えてなんとか生き延びるために何かしたいという気持ちが心の底から湧いてきます。

このような気持ちを大切に、今後自分の進路選択をしたいと考えています。



【東北大学大学院修士1年 栗山大河】

益田の広い魅力をその上へ

都会から隔たれた地方で一週間を過ごすのは初めての経験で、地方の人の温かみや地域のゆとりを知ることができました。益田市は今回の企画で初めて知りましたが、真っ赤な石州瓦の家が連なる景色にそれを模したグラントワ、雪舟の庭園・終焉地や柿本人麻呂神社、100kmのサイクリングロードなど独特の魅力が詰まった地域で、山・海・川と自然にも満ち溢れていました。

しかしそれでも都市圏の人々から目を向けられるわけではありません。益田市を知ってもらうために、空港マラソンや海外のサイクリング団体の誘致、中世歴史のアピールなど数多の取り組みを見て、応援したいと感じました。スカイファームの方々も、人手が減る中で農業だけでなく観光農園としての役割や観光地としての更なる計画も進めていて凄さを実感しました。優しく温かい人ばかりで益田の観光地としての知名度を上げるために協力したいと思います。



【立命館大学1年 納所 創真】

#5. 事後報告会

第31回社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」 in 島根県益田市 の参加者による事後報告会を行いました。

■日時：2023年10月23日(月) 12:00-13:00

■場所：クラダシオフィス・オンライン配信

■目的：参加した学生が、現地の方との交流・収穫支援の活動を通して見出した課題への解決策を提案する

■参加者

「クラダシチャレンジ」in 島根県益田市の参加学生
益田市の方々
豊中市の方々
スカイファームの方々
クラダシ社員



益田市の課題発見・解決策立案

益田市の地域課題

観光資源(高津川清流/石見神楽/中世益田の寺院文化/万葉公園/果物...)を活用・発信できていない

益田市の現状

- ・人口減少 / 少子高齢化 / 過疎化
- ・飛行機の便数が少ない
- ・一次産業の衰退(担い手不足/自然との共生)
- ・観光資源を活用できていない
- ・Uターンが少ない
- ・来訪者の目的はビジネス帰省。
近隣地域の方は、観光レジャー目的。

なぜその課題を選んだのか？

「点」としての観光資源は豊富にあるが、それらを「面」としてつなぐルートやツールが不足している。それと、益田市の推し進めるサイクリングや、ワーケーションをうまく結びつけられると考えたから。空港と隣接しているが、それがうまく活用されていない。

益田市の課題発見・解決策立案

現地で感じた印象・現地の声

- ・予想に反して子供・若者が多かった
- ・商業施設も多い
- ・中世益田の寺院など魅力を発信できる人が少ない
- ・知名度が低い(PRしているが、HPやパンフレットまでたどり着かない)
- ・地元愛が素晴らしい

目指すべき方向性

- ・二拠点生活/ワーケーションの地に選んでいただく
 - ・後継者/担い手不足で悩まないようになる
 - ・農業に興味のある若者が農業や地方暮らしを体験できる場を設ける。
- 「若者がチャレンジできる益田」のイメージ定着



解決策立案

- ①近隣県の訪問を増やす。長期的には益田の名物を全国的にひろめ空港を活用した集客を見込む。
- ②地域間の高校生の交流を促進し、地域の良さ再発見、発信する機会にする。最初は豊中市から。

解決策① 益田市の魅力体験ツアー

目的: 近隣県からの訪問客を増やす。長期的には全国からの集客に繋がるようにツアーを改良していく。

ターゲット: 近隣県(山口県・広島県...)に在住の方

参加費: おとな1名(中学生以上)5,000円 / こども1名(小学生以下)2,500円

(参考: 交通費:1,000円, スカイファーム:880円, 自転車:1,000円, 寺院一般料:1,000円)

近隣客を対象にする理由:

- 近隣から益田市に通勤する人が多い
- スカイファームの果物狩りに近隣の県から来る人が多い
- 飛行機を使った大阪・東京からの集客を大幅に増やすことは現時点では不可能
- 近隣の人向けの小規模な計画から進めることで、着実なツアー形態の確立・改善を見込める

参加するメリット

- 1日で益田市の魅力ぎっしりと
- 益田にしかない中世日本の資源を存分に堪能できる
- 予約の取れない人気店での席確約

解決策① 益田市の魅力体験ツアー

9:00 益田駅集合
9:30-11:30 中司さんら観光課による中世益田の寺院を巡るツアー
12:00 市内で昼食

パターン①

13:00-15:00 フルーツ狩り
※秋限定(梨,柿,ブドウ) @観光農園スカイファーム



パターン②

13:00-15:00 サイクリング(好きなコースを選んで各自で回ってもらう)
01: 山川里海を巡る【100ZERO】コース
02: IRELAND National Team Training Course
03: 2018全日本コース
04: 中世益田満喫コース



15:30-18:00 石見神楽公演視聴
18:30- 夕食 **田吾作(鮎料理の名店)**

↑ツアー参加者限定で席予約！！

解決策② 国内留学プログラム

第一段階:豊中市の高校生と益田市の高校生の国内交換留学プログラム

第二段階:関東圏の高校生と益田市の高校生の国内交換留学プログラム

目的:お互いのまちの魅力を体感する。

プログラム終了後も、地元で足を運んで体感した魅力を発信する。

期間:1週間～1ヶ月

食育 ～「食」「フードロス」の観点～

- 生産・流通・調理までを体験できる機会を提供！（クラダシでの体験を高校生にも）
- 地域の食材を活用して、実際に調理！
- フードロスになりかけの食材・地産地消の食材を利用する！
- クラダシでロス商品の活用方法を紹介！

参考: [まちと食卓](#)



★安定した気候

★交通量の少なさ

★ヒルクライムコース多数

解決策③ 島根県益田市サイクリング合宿

目的: 島根県益田市のサイクリングコースの知名度向上

ターゲット: 近畿、九州、中国、関東圏、全国のサイクリスト

参加費: 5万円(交通費除く) **参加者数:** 30人

参加するメリット

- 人気自転車系YouTuber「MASA」、サイクリスト向けプロテインメーカーのACTIVIKE「Nissy」さんをゲストとしてお呼びして一緒にツーリングが出来る企画を行う
- トレーニングだけでなく、中世の面影が残る街並み、石見神楽、海の幸、日本酒を堪能出来るディナー
- 安定した気候の益田市では、4日間快晴の可能性が高い
- 車通りもそこまで多くなくサイクリストが安心して楽しめるコース

今回のグループワークやディスカッションを通して得た気づき

- 意見交換会でいただいた意見が現場の声として大変参考になった。
- 地域の課題を向き合う貴重な機会になった。
- 六人で同じ方向性を向いて、意見をまとめるのが大変だった。
- 地方に客を呼び込むことは並大抵努力では難しいことがわかった。
- 具体的にターゲットや収益を考えていくと新しい方向性が見えてくることを知った。
- 予算のことなど、農業から少し離れたことについての情報収集不足で、解決策立案に際して現実味を持たせることができなかったことが反省。
- 「田舎の魅力」は沢山あっても、なぜその地域を選ぶのかという理由を探るのが難しい。やはり、もともと観光地ではない場所を観光地に仕立てるということは難しいと感じた。
- 感覚的によさそうな案であっても、実際の事例や数値データなどといった客観的根拠による裏付けが困難なことがほとんどだった。
- 六人ともほぼ同じ体験をしたにもかかわらず、各々着眼点やそこから得た学びが異なっていた。
- その地での体験を経た後では、ネットにあるその地域の情報もまた見え方が変わってくることを実感した。
- フードロスや空港の利活用、サイクリングなどさまざまな要素を包含することが非常に難しかった。

社名

株式会社クラダシ

設立

2014年7月

所在地

東京都品川区上大崎3丁目2-1 目黒センタービル 5F

代表者

代表取締役社長 関藤 竜也

事業内容

ソーシャルグッドマーケット「Kuradashi」の運営

URL

<https://www.kuradashi.jp/> (ショッピングサイト)

<https://corp.kuradashi.jp/> (会社HP)

株式会社クラダシは、益田市以外の自治体でも支援を引き続き行なっております。
ご質問・ご相談等ありましたら、お気軽にお問い合わせください。